

院長就任の ごあいさつ



心臓血管外科
なかやま よしひろ
中山 義博

皆さまこんにちは。大隅鹿屋病院心臓血管外科の中山です。私が佐賀大学胸部外科からの派遣で鹿屋に赴任しましたのが、2003年の1月でした。早いもので、心臓血管外科創設14年目となります。この4月をもちまして、院長に就任することとなりました。重責を担うこととなりますが、「地域医療の維持、発展」のために頑張りたいと思います。

どうぞよろしくお願いたします。

大隅半島における心臓血管外科の役割

御存じの通り、大隅鹿屋病院は心臓血管外科の手術は人口20万人に対して年間100例前後、施行されると言われています。大隅半島の人口がおおよそ20万人ですから、当院の症例数をみますとこの計算が当てはまります。東京都の場合は、人口おおよそ1200万人に対して心臓血管外科が60施設あります。1施設がカバーする人口は約20万人と、ここは当院とほぼ同じです。しかしながら、内容は全く異なります。

都会にある心臓血管外科の施設は、○○○センターのように各施設にある程度の専門性があります。たとえば、大動脈センターなどは大動脈瘤の治療を中心におこなっています。当院においては、24時間365日、すべての心臓血管外科領域の患者さまに対応する必要があり、緊急症例などを「たらいまわし」する施設は周囲にありません。医療における陸の孤島がそこにはあります。本土本州最南端の佐多岬を間近に見ながら、日本本土最南端（沖縄本土は別として）の心臓血管外科施設が「大隅鹿屋病院」なのです。

地域医療連携の重要性

4月から私の母校である佐賀大学の形成外科より常勤医を派遣していただけることになりました。当院の心臓血管外科チームも佐賀大学からの派遣医で成り立っています。

外科を有する大隅半島唯一の施設です。当院を中心として半径50km以内に他の心臓血管外科施設はありません。この14年間で、心臓手術1500例、血管手術1500例と3000例あまりの手術を手掛けてまいりました。この間に「心臓血管外科修練指導医」が当院で4人育ち現在では他施設で術者、指導医として活躍しております。大隅鹿屋病院もこの4月から既に「心臓血管外科修練指導医」である麓英征医師が佐賀大学胸部外科より部長として着任することになりました。私としましても、大いに期待しているところです。

また、歯科口腔外科は、九州大学から派遣していただいています。理想的には大隅鹿屋病院の研修医からスタッフを育てていくべきでしょうが、現実的にはそううまくはいきません。地元の鹿児島大学、宮崎大学、佐賀大学などと医療連携を進めて安定した強固なチーム（病院）を作りたいと考えます。また、徳洲会グループの中でも積極的に意見交換をおこない医師確保に努めていきます。

さらに重要なことは、地域医療連携において「当院の存在価値をどこにおくか?」です。基本的には地域の先生方が「ここはやるよ」と言われるところはお任せし、「大隅鹿屋病院にはこれをやってほしい」と思われることを中心に強化していきたいと考えます。

それが結果的に「大隅で完結できる医療」実現への一番の近道になると私は信じています。



※心臓血管外科修練指導医とは…厳しいトレーニングを積んだ心臓血管外科医に与えられる資格に「心臓血管外科専門医」があります。その専門医を指導する更なる立場にある資格です。